

コースコード：RH-RH237

税抜価格：225,000円

日数：3日間

前提条件

・RHCSA認定または同等レベルの知識をお持ちであることを強く推奨・コースの受講を検討していてRHCSA認定を取得していない場合は、レッドハットのスキルチェックテストでスキルを確認することをお勧めします

受講対象者

Red Hat Storageを使用して大規模なストレージクラスターの構築および維持に責任もしくは興味をお持ちのLinuxシステム管理者またはストレージ管理者

コース概要

このコースは、既存のハードウェアやクラウド環境に拡張性と可用性に優れたストレージを導入する方法を学習したい上級レベルのシステム管理者およびストレージ管理者を対象としています。

受講者は、Red Hat Storage Server のクラスターをインストール、設定、保守する方法を学習します。また、Clustered Trivial DataBase (CTDB)、統合ファイル、オブジェクトストレージ、ジオレプリケーションを使用した、可用性に優れた Common Internet File System (CIFS)

およびネットワークファイルシステム (NFS)

についても知識を得ることができます。さらに、受講者は Red Hat Storage、スナップショット、ジオレプリケーションの Hadoop プラグインについても学習します。

このコースは、Red Hat エキスパート試験 - Hybrid Cloud Storage - (EX236) の準備に役立ちます。

注：Red Hat Storage Server Administration

は、エマージングテクノロジーコースの 1 つです。これらのコースでは、Red Hat の先進テクノロジーに焦点を合わせています。エマージングテクノロジーコースでは、機能や特長に重点が置かれ、ガイド付き演習の形式で進められ、講義はほとんどありません。

目的



- ・ Red Hat R Storage

serverのインストールや設定、およびクラスターの維持管理について理解する

- ・ ジオレプリケーション、ファイルとオブジェクトストレージの統合、CTDBを使用した可用性の高いNFSとCIFSの構築などについて理解を深める

アウトライン

1.Red Hat Storage の概要

Red Hat Storage Server の機能と用語の理解

2.教室の環境の確認

教室の環境の把握

3.インストール

Red Hat Storage Serverのインストール

4.基本設定

Red Hat Storage Server のボリュームの構築

5.ボリュームタイプ

さまざまなボリュームタイプの理解

6.クライアント

さまざまなクライアントタイプから、Red Hat Storage Server のボリューム上のデータへのアクセス

7.ACL とクォータ

クォータと Posix アクセス制御リスト (ACL) の実装

8.ボリュームの拡張

ストレージボリュームをオンラインのまま拡張

9.IP フェイルオーバー

CTDB を使用した IP フェイルオーバーの設定

10.ジオレプリケーション

ジオレプリケーションの設定

11.統合ファイルおよびオブジェクトストレージ

Swift オブジェクトアクセスの設定

12.トラブルシューティング

基本的なトラブルシューティング作業の実行

13.スナップショットの管理

Red Hat Storage によるスナップショットの管理

14.Hadoop プラグイン



Hadoop プラグインの設定